



薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2020年
No.3
事例2

疑義照会

相互作用



事例

【事例の内容】

患者が脳神経内科の処方箋を持って来局した。処方箋にはアジレクト錠1mg 1錠分1朝食後28日分と記載されていた。以前から患者にエフピーOD錠2.5 2錠分2が処方されていたが、今回は中止となっていた。アジレクト錠1mgの添付文書を確認したところ、エフピーOD錠2.5を中止してからアジレクト錠1mgを投与開始するまでに間隔を置く必要があることが記載されていたが、そのような指示はなかったため、処方医に疑義照会した。その結果、処方日数は28日から14日分に変更され、14日間の間隔を置いた後に服用を開始することとなった。

【背景・要因】

同効薬の切り替えであったため、注意事項が気になり添付文書を確認した。

【薬局が考えた改善策】

重篤な副作用が報告されている薬剤や休薬期間が設けられている薬剤に関して、日頃から知識を身につけ備えておく。



その他の情報

アジレクト錠1mg/0.5mgの添付文書（一部抜粋）

【禁忌】（次の患者には投与しないこと）

（1）他のMAO阻害薬（セレギリン塩酸塩及びサフィナミドメシル酸塩）を投与中の患者

【使用上の注意】

3. 相互作用 （1）併用禁忌（併用しないこと）

薬剤名等	臨床症状・措置方法
MAO阻害薬 セレギリン塩酸塩 エフピー サフィナミドメシル酸塩 エクフィナ	高血圧クレーゼ等の重篤な副作用発現のおそれがある。本剤の投与を中止してから左記薬剤の投与を開始するまでに、少なくとも14日間の間隔を置くこと。また、左記薬剤の投与を中止してから本剤の投与を開始するまでに、少なくとも14日間の間隔を置くこと。



事例のポイント

- 選択的MAO-B阻害剤であるアジレクト錠は、MAO-B阻害作用を有する他のMAO阻害薬（セレギリン塩酸塩およびサフィナミドメシル酸塩）との併用が禁忌である。この他にも、本剤の投与を中止してからそれらの薬剤の投与を開始するまでに少なくとも14日間の間隔を置くこと、また、その逆の場合も同様に間隔を置くことが添付文書に明記されている。
- MAO-B阻害作用を有する薬剤が同効薬からの変更により処方された場合は、患者が変更前の薬剤から14日間の間隔を置いて変更後の薬剤を服用開始できるよう、今まで服用していた薬剤の最終服用日を確認するとともに、患者への丁寧な説明が重要となる。



公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通）FAX：03-5217-0253（直通）
<http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。